

仙台平野 災害の歴史を学ぼう



この写真は中野
地区にある
「高砂神社」の
様子です

東日本大震災 . . .

私たちの地域も多くの被害をうけました



東日本大震災2日後の地域の様子



高砂中学校も被害を受けました



○校庭

130cm程度水没

○校舎1階・体育館・
武道場

20cm程度浸水





浸水して動けなくなった車と堆積したヘドロのため、校庭はしばらく使えなくなりました。

ヘドロ除去のボランティア。生徒も一緒に整備しました。



震災後に復興に向けて 全国から多くの支援をいただきました



園芸ボランティアによる
花壇づくり



長野県伊那市立東部中学校との
交流「さくらプロジェクト」

防災展示室 「未来への道しるべ」



震災後、世界各国や日本国内から送られた
メッセージを展示しています

防災展示室「未来への道しるべ」



阪神淡路大震災で被害を受けた神戸市内の中学校から多くのメッセージをいただきました


防災展示室「未来への道しるべ」



5年後・10年後にこの震災の記録と記憶
を伝える目的で設置しています

私たちの記録と 記憶を伝える

過去の記録
や痕跡(こん
せき)も知る
こと



私たちの故郷仙台の災害
の歴史を調べてみよう

課題①: これは若林区霞目にある 「浪分神社です」



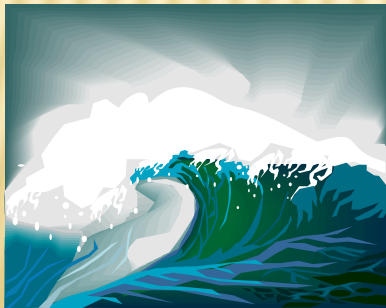
課題①:なぜ「浪分神社」

というのでしょうか?

「防災ノート」p2を参考に、ワークシートの
の答えを完成してみよう



「この地をおそった津波が二つに分かれ
その後、水が引いた場所」



と伝えられている
伝説は本当か???

浪分神社の由来

鎮座 旧番地表示 仙台市霞目字屋敷十四番地
現在地表示 仙台市若林区霞目二丁目十五番三十七号

もと、稻荷神社といひ八瀬川稻荷堂(共同墓地)あたりに在った。ここは昔はもつと広く、高さ二メートルほどの小丘で樹木も生い繁っていたことである。

ここに隠居、又右衛門の肝いりで村民相集って小祠を創建した。時に元禄十六年(一七〇三年)八月十六日であった。

古老の談では、その後あるとき大津波あり、幾波となく押し寄せ多くの溺死者を出したがやがて白馬に跨った海神が現われてこの大波を南北に二分して鎮めたと伝えられている。

これ以来稻荷神社に対する津波鎮撫の靈力信仰が高まり、その名も「浪分大明神」と呼ばれるようになった。

しかしこれは単なる伝説だけでない、この地方は古来幾度となく津波・洪水に襲われているうちに今の地形地層が出来て伝説も生まれたのである。この地方に大きな影響を及ぼした記録では、貞観十一年(八六九年)五月二十六日の三陸地方大地震大津波であり、慶長十六年(一六一一年)の慶長三陸大津波では、仙台領内で一、七〇〇人余の死者を出した。

また天保六年(一八三五年)六月二十五日發生の東北地方太平洋東部の大地震大津波でも仙台領内で数百の民家が流失し溺死者多数と伝えられているが、この時、白馬伝承が成立したと言われている。

この天保六年六月の大津波は小祠奉献以来この地を襲った最大のもので、この年にはこれに続いて閏七月に二回も大洪水あり、天保十年まで全国的に荒天が続き冷害となり天保の大飢饉となる。この惨事を救うべく当時の神主津田民部は、文化八年(一八一一年)より村人により祀られてきた庚神・疱神・山神信仰の由緒深い、五百メートル程西方の現在地を卜占し小祠を奉献、いぐねを伐ってお堂を建て、翌天保七年(一八三六年)二月十二日、新たに祭神、鸕鷀草葺不合尊(うがふきあえずのみこと)のご神体を奉納、石造り神明大鳥居を配し、除災を祈願された。爾来津波の災害も減少した。

明治三八年(一九〇五年)日露戦争勝利後、浪分神社に昇格、明治四十三年(一九一〇年)三月、弥立稻荷神社(保食神社 若林二丁目)に合祀された。

最近本殿の腐朽甚だしく、氏子町民相計り改築の運びとなり、昭和五十年(一九七五年)九月十五日落成、遷座祭を執行した。回廊を除いた以外は旧本殿と全く同型にし、小祠も元通り縁下に納めた。素木(しらき)造り丸柱一間社。屋根は切妻瓦葺、流山造、向拝あり、破風板と海老虹梁(えびこうりょう)の材料には最も苦心したが、栗の自然一本木を用いたので、小規模ながら神殿らしい簡素な美しさを感じさせる。今はあらゆる除災招福の神社として崇敬されている。

平成二十三年八月

若林区霞目町内会

津波避難エリアと避難所・避難場所マップ

0 1 2 3 km

浪分神社
の場所



麒麟ビール
(津波避難ビル)

日鐵住金建材
津波避難タワー
(津波避難場所)

旧消防ヘリポート訓練塔
(津波避難場所)

避難所の設置	避難所の設置区域と避難所の種類
津波避難ビル	津波避難ビル
津波避難タワー	津波避難タワー
津波避難施設	津波避難施設
津波避難場所	津波避難場所

今回の地震で
ピンク色が大きな被害を
受けた地域
黄色が実際に津波が押し
寄せた場所

※津波避難ビルに避難する場合は、必ず避難ビルが
ホームページ上で公表しているものを参照してください。
※この避難所地図は、国土院のデータを基に作成しています。

課題②:身近な地域で起こった 過去の大地震・大津波を調べてみよう

「3・11から未来へ」P32～33

防災ノートp2 を参考に・・・

(1) 弥生時代の津波

(2) 平安時代の地震と津波

(3) 江戸時代の地震と津波

課題②:身近な地域で起こった 過去の大地震・大津波を調べてみよう

(1)弥生時代の津波

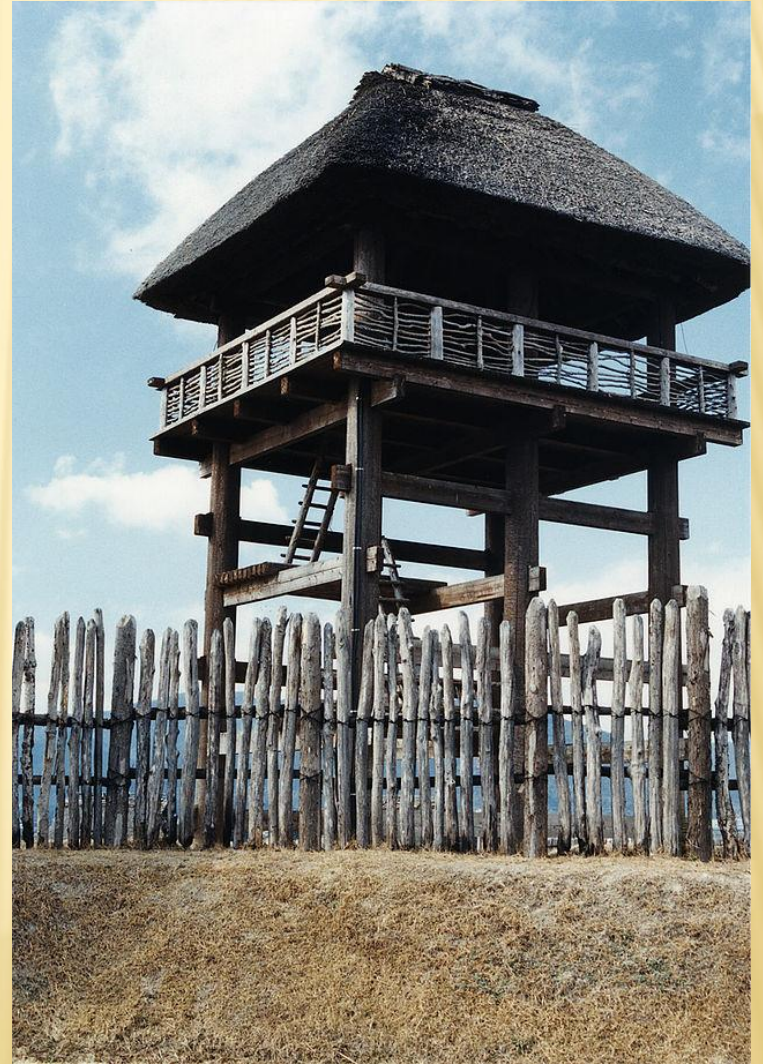
弥生時代とは・・・

弥生土器

高床倉庫

稲作の始まり

青銅器・鉄器



(1) 弥生時代の津波

いつ頃? → 約2000年前

記録・証拠は? → 沓形(くつがた)遺跡

(津波で運ばれた砂で埋まった水田跡を発見)

被害は? → 海岸線から約4 km 内陸

津波で2 km以上先まで浸水

(1) 弥生時代の津波

沓形(くつがた)遺跡
の場所



課題②:身近な地域で起こった 過去の大地震・大津波を調べてみよう

(2)平安時代の地震と津波

平安時代とは

平安京

摂関政治

藤原氏

荘園

国風文化



(2) 平安時代の地震と津波

貞観(じょうがん)地震

いつ頃? → 869年 (貞観11年) 5月26日

マグニチュード → 8.3以上

記録は? → 「日本三代実録」

被害は? → 大地に亀裂、津波で1,000人以上の死者。多賀城や陸奥国分寺にも大きな被害。仙台平野の海岸では、当時の海岸線から2～4 km浸水。

(2) 平安時代の地震と津波

青い部分が津波が来た場所。東日本大震災とほぼ同じ場所に到達！



課題②:身近な地域で起こった 過去の大地震・大津波を調べてみよう

(3)江戸時代の地震と津波

- × 江戸時代とは
 - 江戸幕府
 - 武家諸法度
 - 参勤交代
 - 鎖国
 - 徳川家康



(3)江戸時代の地震と津波

慶長(けいちょう)三陸地震

いつ頃?→ 1611年(慶長16年) 10月28日

マグニチュード→8.1

記録は?→「駿府政事録」(すんぷせいじろく)

被害は?→ **大きな津波が来て**

家が流失(死者約5,000人)

浪分神社まで津波

岩沼で4 km内陸まで浸水

(3)江戸時代の地震と津波

駿府政事録

晦日 松平奥陸守政宗 初魃託
之 故宗領耶海涯人 屋波津人 派朱
悉派朱溺死者 五千人 世曰 津波云々

津波

はじめて
「津波」という
言葉が使われた

明治時代以降も・・・

① **明治三陸地震** 1896年マグニチュード8.2

巨大地震 大津波の被害

死者・行方不明者 約22,000人

② **昭和三陸地震** 1933年マグニチュード8.1

巨大地震 大津波の被害

死者・行方不明者 3,064人

明治時代以降も



明治三陸地震の様子
家が水没しています

昭和三陸地震の様子
津波で船が陸地に押し
上げられました



課題③防災ノートP2を見て・・・

①宮城県の過去の大災害の種類と発生数を調べて数字を記入してみよう

①仙台藩領ならびに宮城県管内の大災害の種類と発生数

	地震	津波	大雨・洪水	大風
8世紀	1			
9世紀	2	1	1 1	
15世紀			2	
16世紀	2	1		
17世紀	6	6	1 0	4
18世紀	8	2	4 1	1 1
19世紀	1 2	6	4 0	5
20世紀	6	6	3 5	3 7
合計	3 7	2 2	1 3 0	5 8

課題④ 今日のまとめです・・・

今日の課題①・課題②・課題③を通して

「気づいたこと・

注意すべきこと」

を考えてみよう！！

最後に・・・

中野地区の様子です
生徒会のみなさんが
写真をとりました



まだ被害のあ
とが残ってい
ますが・・・

力強く見守っています

一本の木が天高く力強く伸びていました



私たちの体験をふまえながら
災害の歴史を学び
伝えていきましょう